（様式第５号）

会　議　録

１　会　議　名　　第３回（仮称）子ども憲章検討懇話会

２　会 議 種 別　　市政運営上会合

３　開 催 日 時　　令和６年６月２８日（金）
　　１０時００分 ～ １２時００分

４　開 催 場 所　　北九州市役所本庁舎　１５階　１５Ｃ会議室
　　（北九州市小倉北区城内１－１）

５　出席者氏名　　別添「出席者名簿」のとおり

６　次　　第　　（１）開会
　　（２）議事（(仮称）子ども憲章について）
　　（３）閉会

７　会 議 経 過（発 言 内 容）

【議題「(仮称）子ども憲章」について】
（資料に沿って、事務局より説明。）

〇すごくよくできているなというのが第 1 の感想。大きなタイトルもすごくインパクトがあり、印象深い言葉。前文の書き出しがいい。「自分がこどもだった頃大人ってどんなふうに見えていたんだろう」という 1 つの物語の始まりみたいな、詩が始まるような。それって今までになかった宣言文の書き出しだと感じたので良いと思った。４番と５番は、文章が長いから、聞いて記憶に残らないかもしれない。聴覚の問題と視覚の問題が同時に充足できれば、それに越したことはない。

〇前文がすごく読もうという気になれるなと思った。アクションの３つ目の「こどもを諭す」という表現を聞いたときにイメージが浮かばなくて、「叱る」を柔らかく表現するために「諭す」を選択したのかなと思うが、ぱっと聞いたときに諭すって何だろうと思う。皆さんがどんなイメージをされるのかを聞きたい。

○「（仮称）子ども憲章」というのは固いと思っていたので、柔らかい感じで良いと思った。３番目の「愛情コラッ」について、今の子たちに「コラッ」は合わないんじゃないかなと思う。

○不等号が分かりづらいのかなとも思う。

○柔らかい表現がきているので「諭す」は少し固いかなと思ったが、「叱る」や「怒る」というのは捉え方の違い。保育所では「怒る」と「叱る」の違いはあって、「怒る」は感情的に怒ることだが、「叱る」は愛情を持って叱るというふうに捉えていて、それに諭すことも含まれる。私たち保育業界とそれぞれの受けとめ方の違いだが、「諭す」よりは、もっと違う方が良いかなと思う。２番目の「ひざをかがめて」が気になる。「同じ目線で」という方がすっきりする。しゃがむことだけが同じ目線ではない。行動 1 つではなくて、気持ちの部分の同じ目線で、の方が私は良いかなと思った。

○「ひざをかがめて」は少し気になった。また、３番は「こどもを諭す」とあるが、「こどもに伝えるときは愛情を大切に」などにして、「コラッ」は要らないのではないかと思う。４番の「大丈夫」がどちらに向けて言っているのかなと思う。「私たちは大丈夫ですよ」なのか、「親御さん大丈夫ですか？」なのか。「親御さん大丈夫ですか？」と聞くと、「大丈夫です」としか答えられないと思うので、ここは言葉が違う方が良いのかなと思う。５番の「は」を取るだけですっきりする。「こどもの周りにいつもたくさんのありがとう」とすると長さを感じないのかなと思う。

○こどもたちにワークショップを実施し、こどもの意見もいろいろ聞いてみたら、こどもの方から「大丈夫」という言葉がたくさん出た。面白いなと思った。

○障害のある人に日頃接しているので、なかなか「助けてください」「手伝ってください」と言えないというのがある。「なにか手伝いましょうか」と言われると、「これを」と言えるが、「大丈夫ですか？」と聞かれると、「はい、大丈夫です」と言ってしまうというのをよく聞くので、それを思ってしまった。

○心理的な安心感を親御さんにも分かってもらうような「分かってるよ」「心配しないでいいよ」というような意味で、こどもたちは「大丈夫」という言葉を言っていた。

○会社の現場で、少しメンタルが不調そうな社員に「大丈夫？」と聞くのはよくないと言われたりする。辛くても「大丈夫？」と聞かれると、「大丈夫です」と答えるので、「具体的に困っていることはない？」と聞いたりすることと近

いとを感じた。「大丈夫？」と聞いて、「大丈夫」と言わせてしまうようなことにもなりかねないと思った。

○２番目の「ひざをかがめて」は、どちらかというと象徴的な言葉で、本当に具体的に常にひざをかがめるというふうには捉えて読まなかった。象徴的な言葉を持ってきたのかなと思った。３番目の「諭す」については、「愛情コラッ」を採用するかどうかだと思う。こどもと大人の関係は、双方向に教え合う、対等な関係性ということは大前提として、例えば、会社の中でも、同じ人間同士でも、上司と部下というときには、上司が部下を指導するという言葉で言われるし、学校の中ではこどもたちを教育するという関係性が存在することは歴然とある。これも「愛情コラッ」の中に「教育する」「指導する」「諭す」の全てが含まれているとすると、「こどもを育む愛情コラッ」で伝わるのかなと思う。４番目の「大丈夫」は、受け止め方によっていろいろな響き方をするんだなと思った。どこまで声をかけられるかというのがあって、ほんのちょっとの関心、声かけを促す意味で捉えてもいいのかなと思う。

○３番目の「諭す」というのが少し上から見ているように感じる。「指導」や「教育」も目下の人に教えるという感覚なので、「同じ目線」ではないと感じたので、「伝える」などの柔らかい表現が良いかなと思う。４番目の「大丈夫」について、資料３のイラストなどを使って表現できたら、このままでも伝わると思う。イラストなどを使うと伝わりやすい。

○ぱっと見た感じ子育て当事者というよりもその周りの人へのメッセージの方が強いかなと読んでいて思った。中心の人へのメッセージ感があまり伝わりきれていない。妊娠したときに市役所に行って、いろいろな紙に「おめでとうございます」と書いてある。それに非常に救われた。職場だとあまりそういうのはないが、市役所のサービスにはちゃんとそういうものが含まれている。そういう感じがまちなかにも出てくると、助けを求めてもいいんだなとか、きついと言ってもいいんだなというのが伝わるのかなと思う。また、これは英語など、他の言語での発信も検討しているのか？周りにも、日本語が喋れるが読めないくらいの外国の方が多い。助けを求めるのもためらいがある感じなので、その人たちにも伝わるといいと思う。

○「こどもの目線に合わせて」という言葉は、気持ちに寄り添うとか、しっかり見てという意味もあるし、いいのかなと思う。３番目は、昭和時代は近所のおじさんの「コラッ」で育てられてきた。そこに今となると愛情を感じるが、今の人達がこれを分かるのかという気はする。「諭す」は素敵な言葉だが、子どもだったら「導く」とか「叱る」でもいいのかなとも思う。分かりやすい言葉が一番必要かなと思う。４番目の「大丈夫」は、いろんな立場からの受け止め方があるんだなと思った。自分が子育てや仕事でいっぱいいっぱいのときに

先輩が肩をぽんっとたたいて「大丈夫？」と言われたときは涙がぶわーと出た。「大丈夫」という言葉は安心感を与える。５番目について、母親学級で、「えらいね」と言うより何かをしたときに「ありがとう」という言葉の方が心の栄養になるんだよと伝えている。親子でも夫婦でも「ありがとう」をたくさん使えたらいいなと思う。

〇アクションのところは、受けとめ方がそれぞれ立場によって変わってくるのかなと思うので、イメージをちゃんと間違えないように、イラストをつけるといい。タイトルが、単に「北九州にこにこスイッチ」だけだと、このタイトルだけ読んだときにこどもとリンクしない。タイトルのところにも、ちょっと長くなるかもしれないが、「北九州こどもまんなかにこにこスイッチ」とかの言葉があった方がタイトルだけ聞いたときになんだろうとならない。タイトルの横に「こどもまんなか北九州市」のロゴをつけるとかでもいいが、少し工夫がいるかなと思う。

〇見た目でパッと目につくことを考えていたら、マークを入れるっていうのは大事かなと思う。「大丈夫」の後にスマイルマークが仮に入ったとしたら、安心していいよということがイメージしやすいなと思った。表現するときには、そういったちょっとした工夫をするだけで目を引くし、考えさせられて良いかなと思った。もっと言えば、「愛情コラッ」のところも、「愛情」のポイントを大きくする、「コラッ」を小さくするとか、そういう表現の工夫があったら目に留まるだろうなと、そして、考えさせるきっかけになるだろうなという気もする。

〇「コラッ」はどうしてもきついなと思う。

〇４番目について、周りに対してこういうアクションをしてほしいという意味合いの言葉なのか、それとも子育てをしている親御さんが見たときにて安心してほしい言葉なのか、どちらに対しての言葉なのか？

〇親御さんに対して「大丈夫だよ」というのが伝わってほしい文章を入れるのは賛成だなと思う。

〇同じように感じるところはあるが、全部見たときにこどもじゃなくても、基本的な人付き合いを良くしていくときに当てはまること。４番だけ、親に負担がいっているということを表している感じがする。

〇「親への声かけ」を「お互い様の」とかにしたらすっきりするのかなとも思う。

○４番目だけが「親」なのかということに関しては、この「子ども憲章」が誰に対して発信するメッセージなのか、多くの市民をどれだけ巻き込むことができるのかというのが背景にあるので、いち市民の子育てしている親御さんに対してどういうアクションを起こすのかというのが４番に入ってくるのは自然なことだと思う。

○「お互い」というのは、親ではない人がある親に対して投げかける以外に、お互いってどう返ってくるのか。関わる人をどこまで想定するのかというのがあって、社会でこどもを育てようという言葉って、その社会って何を指しているのかなというところを考えて、家族だけの問題ではなくて、全てのコミュニティを取り込んでこどもたちを育てていこうという親だけじゃない社会という体系が見えてきている。するとここに社会との対峙として親という言葉を入れるというのは分かりやすいかなと思う。色々なものまで含めていくと、今の家族の問題と社会の問題というのがぼやけるのではないかなと思う。

○結局は親が育てるものだから周りは助ける立場ですよという対比が明確になってしまい、助けてもらう人と助けられる人がはっきりしすぎると、それはそれですこしきついかなと思う。親のひとりとして怖いなと思うのは、自分も不完全な状態なのに、この子たちをまともに育てようというようなプレッシャーみたいなものを感じる方も多い。若い方など、まだ未熟なのにこどもなんて持てませんと思っている方もいる。深く考えれば考えるほどこどもを持てない。そんな中で、そうやって線を引いてしまうようなところにも捉えられかねない。お互い様というとぼやけはするが、みんなで分担しようというというのは出てくるかなと思う。

○一番最初に、子育てしているお母さんが厳しいというアンケートも資料に入っていて、お母さんたちの余裕を持つためには一言あったほうがいいと思う。だけど、あまり「子育て大変」とは言わなくてもいいのかなとも思う。親御さんがやっぱり困っているのは、こどもが人前で騒ぐとか、買い物しにくいとか、日常生活の中で、公共機関に乗ると静かにしなさいよとかいうそのイメージでいくと、ただ、「こどもが騒いでも大丈夫だから、お母さんたち大丈夫よ」みたいなことが単純に伝わってもいいのかなと思う。

○大変なことはあるだろうという不安はあるが、周りは意外と大丈夫だよと思っているということが伝わるといい。ボール遊びについて、意外と周りの人はこどもにボールで遊んでほしいと思っているというのがこどもには伝わっていないということと少し似ている。子育てが大変というよりは、周りが見守っていますよということが伝わればいいなと思う。

【議題「（仮称）子ども憲章」について】
（資料に沿って、事務局より説明。）

〇③の４コマ漫画がいいなと思う。そしてこれがＳＮＳで発信されて拡散されていくことで、若い世代も興味を持てるんじゃないかなと思う。１アクションについて１漫画だけじゃなくて、いろいろな場面でつくるといい。

〇②のポスターをもし作るなら、自治会の掲示板が町内会にひとつあるので、その掲示板に貼るといい。枚数は相当な数になるが、もし余裕があればそういうふうにしてもいいと思う。

〇ポスターだけじゃなくて、配布できる小さいものがあればいい。

〇大学など、これから社会人になる方にこういうことを知ってもらうことはいいこと。いろいろなチャンネルで知ってもらえるといい。

〇貼る場所について、待ち時間や暇なときに貼ってあるのを読んでみてこんなのがあるんだと感じることが多いので、待ち時間がある場所がいい。例えば、お手洗いの出口とかバスの中とか、待ち時間でふと目に入る場所のほうが読んでもらえるのかなと思う。

〇商業施設っていうのは、重要な掲示場所だと思う。

〇各入口のチラシ入れの横に掲示すると目にもつく。求人募集などはトイレに貼ったりしている。そういうところにも貼れるんじゃないかと思う。バッチをつくる案があるなら、従業員何人かに回して、「こどもに声かけますよ」みたいな案内係みたいにすると良いと思う。

〇これの一番下に企業名とか書くところがあって、企業が推進するみたいなのも面白いなと思う。「自分の会社はこれを推進します」とかすると面白い。あと、公共機関も良いと思う。

〇まずは、こういう取組をやっているということをこどもたちに知ってもらいたい。こどもたちに「にこにこスイッチ」を思い思いに作ってもらうコンテストのようなものをして周知をするみたいなことができたりすると面白い。それぞれ賞をあげてもいいのかもしれないし、その取組をこどもたちを通じて、親は知るというような、そういう一連の流れを作れたりするといい。ものづくりのまちということもあるし、九工大さんが、すごい大人げないのをつくるかもしれない。企業の担当をっていう話があったが「にこにこスイッチ係」みたいな人をその職場の中の人とかで任命して、持ち回りでバッチがついている

ような、関係人口じゃないが、関わる人や関わりしろを増やしていくと良いのかなと思う。

〇従業員がバッチをつけて声をかけると、お客さんも声をかけやすいと思う。この時代だから声をかけたらいけないと思う人も多いと思うので、従業員がバッチをつけて声をかけていると、便乗して声をかけてくれると思う。

〇最初、子ども憲章の話をいただいたときに思ったのは、テーマソングみたいのがあって、それを流すことで耳に入ってくることによって普及していくかなと思う。コストパフォーマンスがどのぐらいいいかということを考えるとどうなのかなというのは思うが、1つのアイデアとしてそういう普及のさせ方もあるかなと思う。

〇歌までいかなくても、ワンフレーズだけでも頭に残る。「からだにピース、カルピス」くらいな感じ。

〇市政だよりに掲載するというのは、自治町内会の加入率は６割を切っている。加入者もほとんど若い人がいない。若い人に宣伝して意識してほしいというと、市政だよりはどうかなと思う。

〇文字だけだとなかなか辛いので、もし歌を作られるのであれば、「にこにこスイッチ体操」まで作って動きをつけてあげると動画として拡散しやすいのかなと思う。

〇いかに市民の中にひとりでも多くの賛同者が生まれるためにはどうするかというところだが、今、同じ価値観の同質の集団で話をしているので、１００％みんなに共有されるはずと思ってしまいがちだが、ほとんどがそんなに振り向きすらしないという前提でどう進めていくかという視点も必要。ひとりでも多くの人に振り向いてもらうためには、最初にいかに母集団をつくり、そこの人たちが少しずつ広げていく流れが必要になるかなと思う。その母集団は教育現場にあるんじゃないかと思う。なかなかそこを企業が引っ張っていくというのは時間がかかる。ここに一番そうだよねと思う方が多くいらっしゃる学校、親御さんのところにいかにきちんとこういう取組がスタートしましたということを発信できるかどうかというのが一番効いてくるところだと思う。母集団形成をどこに持ってくるかをまずは検討するといいのかなと思う。

〇関係ないところにも掲げていくことが大切だと思っていて、市政だよりも教育のことを考えている家庭は見ているので、意味のないことではない。

〇母集団をつくることはすごく大切で、本人たちが自分たちのためにと分かってもらってないと、周りからくるのは嫌なのかなとも思ったりする。そこは、子育て世帯とか子育て中の人にまずはきちんと伝える必要はあるかなと思いました。

〇市政だよりを配る側にいるが、それぞれの自治体で町内会の集まりがあったり、学校の先生たち来る集まりもある。地域に戻ってもそれぞれができることからやっていけばいいのかなと思う。冊子があると配りやすい。

〇この周知を、細く長くいかにやり続けるかだと思う。考えているポスターを、1つアイコンを作って、いかに長く使い続けられるか。瞬間的には市政だよりもおそらく市長が取り上げてくれて、会見で話してくれて、マスコミは一旦取り上げてくれて、瞬間のところに乗っかってバーッと出すのも 1 つ考えないといけないが、その後続かないと多分忘れ去られる。それをいかに残せるかというのを考える必要はあると思うので、ある程度そのやり方を絞った方が長く残っていく。

〇漫画を X で読むことが多いので、こういう漫画で伝えるのはいいと思う。

〇できるものについてどう実行に移すかということで、周知のための具体策ということだと思うが、他の行政計画の中にこれを推進するような取組など、もっと入り込むようなことができると、今年だけで終わりではなくて、毎年やること、行政計画の改訂まではやるとかいう形で枠組みがとれるかなと思う。